

平成24年度 事業報告書

自平成24年4月 1日

至平成25年3月31日

平成25年6月9日

一般財団法人 日本学協会
(東京都杉並区高円寺北1-12-19)

第1 事業の概要

公益法人改革に伴い当協会としては、一般財団法人へ移行することとし、平成24年10月10日内閣府へ認可申請を行った。その結果、平成25年3月19日付で認可を受け、同年4月1日移行に伴う設立登記を行い一般財団法人に移行した。

特例民法法人としての最終事業年度となる平成24年度は、日本学の総合研究・普及、日本学に関する講演会・講習会の開催及び日本学に関する雑誌・図書の刊行等の各事業を実施し、当協会の目的である学術文化の発展に寄与すべく尽力したところである。

なお、これらの事業は移行後も、継続事業として実施することとしている。

第2 事業の実施状況

1 日本学の総合研究・普及

本事業は、広範かつ多岐にわたる日本学の総合研究を研究者の個人研究、共同研究あるいは研究会を通じて行っているものである。

(1) 研究会

東京における総合研究会は、各地方の代表者を含めて開催したほか学生対象の古典講読の研究会を実施した。また地方（水戸、伊勢、岐阜、大阪、名古屋等）においても地域の特性に応じた定例研究会を行った。

研究者は、評論家、大学教授、高校教諭などの本会の研究員をはじめ、本会の趣旨に賛同する研究者との研究交流を行なっているが、研究活動の活性化を図るため、新たに専任研究員を3名増員して合計12名とした。研究者と研究題目は「協会創立60周年記念事業実施計画」で指定した。

(2) 公開研究会

昨年度から実施している公開研究会は、「日本の近現代戦史に学ぶ会」に加え「先哲に学ぶ会」を実施した。

「日本の近現代戦史に学ぶ会」は、「日米戦争の史実に戦いの本質を考える」をテーマに、元防衛研究所戦史部主任研究官、当協会常務理事の永江太郎氏が5回にわたり発表を行った。

「先哲に学ぶ会」は、「継承された水戸の心」と題して植草学園短期大学名誉教授、当協会理事但野正弘氏が5回にわたり発表を行ったほか、「ペリー来航と幕末の先哲たち」をテーマに軍事史学会顧問原剛氏らの講演を実施した。（合計6回実施）

(3) 研究成果

平成24年度の主な研究活動は、前年に引き続き「現代日本思想史の研究」（代表 久野勝弥）と「昭和期における日本外交史の研究」（代表 井星 英）であるが、研究成果の論文は、学術誌『藝林』と雑誌『日本』に発表した。

以上の研究事業の概要は、下記のとおりである。

研究者の学会発表回数：10編	『藝林』発表論文
研究者の論文発表回数：69編	『日本』発表論文
総合研究会及び定例研究会	開催数35回 参加者：約640名
公開研究会	開催数11回 参加者：約500名

2 日本学に関する講演会・講習会の開催

本事業は、日本学普及のために行っている講演会、藝林会学術研究大会、講習会の事業である。

(1) 講演会

平成24年度は、東京講演会（第9回）を学士会館において、「天皇皇后両陛下にお仕えして」と題して（講師 前侍従長渡邊允氏。要旨は『日本』第63巻第1号に掲載）、また大阪講演会（第10回）は国民会館において「日本再生はまず経済再生から」と題して（講師 関西学院大学教授 盛山和夫氏。要旨は『日本』第63巻第4号に掲載）開催した。

(2) 藝林会学術研究大会

藝林会学術研究大会は、毎年テーマを設けて開催し、記念講演、研究発表及び現地見学等を行っているが、第6回目となる平成24年度は、三重県松阪市において「『古事記』をめぐる諸問題」を主題に、研究発表、相互討論を行うと共に樹敬寺内の本居家墓地等の現地見学を実施した。（発表論文等は、『藝林』第62巻第1号に掲載）

(3) 講習会

講習会は、日本学を高校生や大学生、社会人等の青少年に普及するために2泊3日の合宿形式で実施しているが、平成24年度も「わが国と日本人のあり方を考える」をテーマに奈良と大阪で実施した。

内容は、大学教授や評論家等各界の専門家による講義、講話をはじめ参加者の相互討議や意見交換等により日本の歴史や先哲について理解が深まるようきめ細かい指導を実施した。

(4) 開催結果

定例講演会（東京・関西）	参加者：約150名
藝林会学術研究大会	参加者：約70名
講習会	参加者：約70名

(5) 広報活動

定例講演会、藝林会学術研究大会、講習会の開催は、ホームページを始め、その都度、新聞(『産経新聞』)及び月刊誌(『正論』)で、会員以外にも広く参加を呼びかける広告を実施した。

3 日本学に関する雑誌・図書の刊行

本事業は、日本学に関する研究成果の発表並びに普及を図るため、学術誌『藝林』と雑誌『日本』を発行するとともに日本学に関する図書の刊行および出版助成等を行うものである。

(1) 学術誌『藝林』の編集・刊行

『藝林』は、国民の道義を高揚し日本文化を向上させるため、真摯で自由な学問的研究を行うことを目的に設立された藝林会の学術誌である。歴史・文学・思想などの人文系学問の研究成果を発表する場として会員のみならず広く一般から寄稿された論文を掲載している。平成24年度は、第61巻第1・2号を刊行した。

(2) 機関誌『日本』の編集・刊行

『日本』は、日本学を普及するために一般向けに刊行している月刊誌である。執筆者は、評論家、大学教授をはじめ各界の専門家、有識者等で、内容は政治、経済、歴史、文学など幅広い分野にわたっているが、投稿も掲載している。平成24年度は第62巻第4号～第63巻第3号を刊行した。

販売・頒布は、定期購読者以外にも、講演会・講習会や公開研究会で実施したほか、有識者への寄贈や学生には購読料を半額とするなどして普及に努めた。

(3) 図書の刊行

図書は、『平泉澄著作集』の電子化刊行の研究と準備を実施した。

(4) 研究成果発表関係刊行物

ア 定期刊行物

名 称	頁 数	発 行 部 数	備 考
藝 林	199頁	400部	年2回刊行
日 本	50頁	1,200部	年12回刊行

イ 参考(過去5年間の主な刊行物)

書 名	頁 数	発 行 部 数	備 考
主力艦隊シンガポールへ	266頁	2,000頁	平成20年度出版
山 彦	253頁	5,000頁	平成20年度出版

『日本』総目次(稿)	309頁	100頁	平成21年度出版
『桃李・日本』総目録	315頁	200頁	平成22年度出版

(5) 広報活動

『藝林』と『日本』の発行は、年に6回新聞広告（『産経新聞』）を行った。